

茨城 JRAT 初の県外被災地への派遣

【JRAT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)】

○ JRAT (日本災害リハビリテーション支援協会) の目的

JRAT は、東日本大震災をきっかけに発足しました。大規模災害発生時に、要災害援護者、新たな障害者、被災高齢者などが自立生活を再建できるよう、フェーズに合わせてリハビリテーション支援を行うことを目的としています。

○JRAT の活動

避難所では、災害による混乱や環境の変化により、生活が不活発になるため、体の機能や認知機能の低下、呼吸・循環器疾患、深部静脈血栓症 (DVT)、エコノミークラス症候群などが起こりやすくなります。JRAT では、災害関連疾患の予防・対策や、避難所をより生活しやすい環境にするために、避難所の評価・整備、福祉用具を手配・活用などを行っています。JRAT の構成メンバーは、リハビリテーション医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケアマネジャー、義肢装具士、そのほか医療福祉関連職などです。

○茨城 JRAT 初の県外派遣

能登半島地震においても、急性期は脱したものの、避難所生活は長期化することが予測されるため、震災関連死、生活不活発病などの予防に、JRAT の活動へのニーズが、高まります。茨城 JRAT では、この度、能登半島地震に対して支援メンバーを派遣することになりました。茨城 JRAT の県外活動は発足以来、初めてとなります。

なお、派遣予定スケジュールは次のとおりです。

- ・2月6日－8日(3日間)1隊4名(医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)
- ・2月14日－16日(3日間)1隊4名(医師、理学療法士3名)

定例記者会見後に茨城 JRAT の会長をつとめる筑波大学附属病院リハビリテーション部部长(医学医療系 リハビリテーション医学)羽田康司(はだやすし)教授が、JRAT に関する説明を行います。合わせて、被災地の避難所において実際にどのようなリハビリを行うかのデモンストレーションも行います。椅子に座ったまま、タオル1本あればできる等、どこでもできるものですので、被災地の皆様のお役に立てれば幸いです。

茨城 JRAT 説明

茨城 JRAT 会長：筑波大学附属病院リハビリテーション部部长
医学医療系リハビリテーション医学
羽田康司(はだやすし)教授

問い合わせ先

筑波大学附属病院リハビリテーション部
清水如代(しみずゆきよ)
029-853-3795